

養護教諭採用試験を受験した学生の意識調査

川野 司

九州女子大学人間科学部人間発達学科

北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2012年6月7日受付、2012年7月19日受理)

要 旨

養護教諭採用試験について、受験した都道府県、受験で困ったこと、受験で迷ったこと、受験で不足していたこと、今後つけたい力の5点についてアンケート調査を行った。その結果、多くの学生は受験地を1つにしぼっていた。そして学生が受験で困ったことは、自分が勉強不足だったこと、養護教諭採用試験に関する情報の収集不足、願書や申請書類の書き方などであった。受験で迷ったことは、受験の勉強の仕方や方法、どんな教材を使って勉強したらいいか、どこの県を受験するかなどであった。また受験で不足していたことは、教職教養、全体的な勉強不足、小論文や記述問題の書き方であった。さらに今後つけたい力として認識しているものは、教職教養、一般教養、専門的知識・技能などであった。

1. 調査目的

九州女子短期大学「子ども健康学科」は、これまでの初等教育科と養護教育科の2学科が1学科に改組統合されて2011年4月に発足した新しい学科である。また子ども健康学科は、将来の幼稚園や保育園の教員および養護教諭の教育と養成という社会的使命を担っている。そして養護教諭になるためには、都道府県が実施する教員採用試験を突破しなければならない。子ども健康学科においても、教員採用試験に向けた指導と対策が行われている状況である。筆者は平成22年度に養護教育科の教育実習に関する事前・事後指導を担当する機会があった。その時、平成23年度養護教諭採用試験を受験した学生について、養護教諭採用試験に関するアンケート調査を行った。その理由は、実際に養護教諭採用試験を受験した学生の意見や考えを真摯に受け止め、学生の指導に役立てたいと考えたからである。今回アンケート調査をまとめ、養護教諭採用試験を受験した学生の意識と実態を知ることは、これから養護教諭を目指す学生の指導に関わる教員に役に立つものと考えている。

2. 調査方法

養護教育科本科2年生と養護教育学専攻科1、2年生に、平成22年10月に養護教諭採用試験を受験した際の感想、および大学の授業で取り入れて欲しい内容等について、自由記述

で尋ねた(表1)。

その後、回収した自由記述内容を分析し、養護教諭採用試験について「受験都道府県の数」、「受験で困ったこと」、「受験で迷ったこと」、「受験で不足していたこと」、「今後、つけたい力」の5つの内容に関する調査票を作成した。本科2年生と専攻科1、2年生に対して、11月に調査票を用いて、平成23年度養護教諭採用試験を受験した学生の意識調査を行った(表2)。

表1 自由記述アンケート

教員採用試験についてのアンケート	
1	教員採用試験を受験するときに、困ったことは何ですか。
2	教員採用試験を受験するときに、迷ったことは何ですか。
3	教員採用試験を受験して、不足していたと感じたことは、どういうことですか。
4	今後、どういう力をつけたいと思いますか。
5	そのためには、自分でどういうことをしようと思いますか。
6	そのことに関して、授業のなかで、取り入れて欲しいことは、どんなことですか。
7	学科全体で取り組んで欲しいことは、どんなことですか。

表2 養護教諭採用試験に関する調査票

教員採用試験に関するアンケート調査	
(当てはまるものすべて選択してください)	
問1 受験都道府県の数	<input type="text"/>
① 1つ ② 2つ ③ 3つ ④ 4つ以上	
問2 教員採用試験の受験で困ったこと	<input type="text"/>
① 採用試験に関する情報の収集不足	
② 願書や申請書類の書き方	
③ 願書や関係書類の送り方	
④ 願書の入手の仕方	
⑤ 周囲の雰囲気によって圧倒されて、とまどった	
⑥ 他県を受験したかったが試験日が同一であった	
⑦ 自分が勉強不足だったこと	
⑧ 進路に迷った	
⑨ 受験会場が広くて迷った	
⑩ 受験者が多かった	
⑪ ボランティア経験がなく、自己PRがうまく書けなかった	
⑫ 体調不良	

- ⑬ 適性検査の内容
- ⑭ 試験内容が都道府県で違っていた
- ⑮ 受験の都道府県の体験談が聞けなかった
- ⑯ 最終学歴に本科を書くか、専攻科を書くか
- ⑰ 取得予定免許状が2種か1種か

問3 教員採用試験の受験で迷ったこと

- ① 解いた問題が出なかった
- ② どこの県を受験するか、出身県か採用が多い県か（受験地）
- ③ いくつの県を受けたいか（受験数）
- ④ （福岡）県と（福岡）市のどちらを受験するか
- ⑤ 他県を受験しようと思っていたら試験が終わっていた
- ⑥ 会場の受験教室が分からなかった
- ⑦ 受験会場には何分前に着いたらいいか
- ⑧ 勉強不足のため受験するかどうかを迷った
- ⑨ 問題をどの順序で解いたらよいか
- ⑩ 受験勉強の仕方や方法
- ⑪ どんな教材を使って勉強したらいいか

問4 教員採用試験の受験で不足していたこと

- ① 小論文や記述問題の書き方
- ② 集団討論で人の意見を聞いて自分の意見を述べる力
- ③ 集団討論の練習
- ④ ロールプレートの仕方
- ⑤ 面接練習と面接に対する対応
- ⑥ 実技のスキル（救急処置など）
- ⑦ 苦手分野をマスターしてなかった
- ⑧ 全体的な勉強不足
- ⑨ 一般教養
- ⑩ 教職教養
- ⑪ 専門知識
- ⑫ 基礎力
- ⑬ 応用力
- ⑭ 集中力
- ⑮ 受験の経験（対策が分からなかった）
- ⑯ 受験の心構え

⑰ 受験の緊張感

問5 今後、つけたい力

① 教職教養

② 一般教養

③ 専門的知識、技能

④ 先ず1次を合格する力

⑤ 合格できる学力と人間力

⑥ 受験内容をもとに勉強を継続する

⑦ 実習を踏まえた実践力

⑧ 小論文を論理的に書く力

⑨ 出題傾向を知り問題に慣れる

⑩ 書かれていることを理解し、的確に答えられる力

⑪ 分からないことは、自分で調べる実行力

⑫ 救急処置の仕方

⑬ 養護教諭としての指導力

⑭ ミュニケーション力

⑮ ロールプレーができる力

⑯ 社会人としての自覚

⑰ 積極的な発言力

⑱ 学習習慣をつける

⑲ 答申、指導要領、法令など

3. 調査内容の分析

(1) 都道府県の数

先ず、養護教諭採用試験を受験した学生は、本科2年生32名、専攻科1年生10名、専攻科2年生14名の計56名が受験していた。先ず受験に際し、いくつの都道府県を受験したかを尋ねた。多くの学生が受験地は1つにしており、専攻科2年生は2～3カ所の複数受験をしていた。受験した都道府県の数割合は、図1のグラフである。

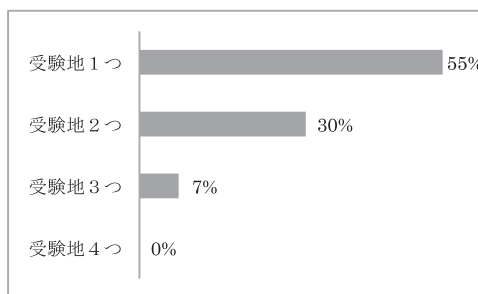


図1 受験都道府県の数

図1からは、約55%の学生が1カ所を受験していた。学生の話を見ると、学生は出身県で養護教諭として勤めたいという地元志向の

考えが強く、出身地の養護教諭採用試験を受験していた。

なお養護教育科の学生は、養護教諭採用試験では、本科2年生時、専攻科1年生時、専攻科2年生時に、現役学生として延べ3回の受験ができる機会がある。

また、2～3カ所の複数都道府県を受験していた学生は37%であった。学生インタビューによれば、複数受験者の多くは、本命の地元の都道府県教員採用試験の心試しとして他府県受験をしていた。

(2) 教員採用試験の受験で困ったこと

教員採用試験で困ったことを尋ねると、学生は実際の教員採用試験に際して当惑したり困っていた実情が分かった。受験後そうした学生自身の生の声を聞くと、受験内容とは別に受験に対する事前指導の必要性を強く感じた。図2は教員採用試験の受験で困ったことの割合が大きい順にまとめたグラフである。

教員採用試験を実際に受験して、学生が当惑したことの上位3項目は、「自分が勉強不足だったこと」(79%)、「採用試験に関する情報の収集不足」(45%)、「願書や申請書類の書き方」(34%)であった。これらの項目を含めて、採用試験受験に対する学生の不安要因を解消するためには、願書の取り寄せ、書き方、発送などもっと学生の立場から学科としての組織的な取り組みが必要である。

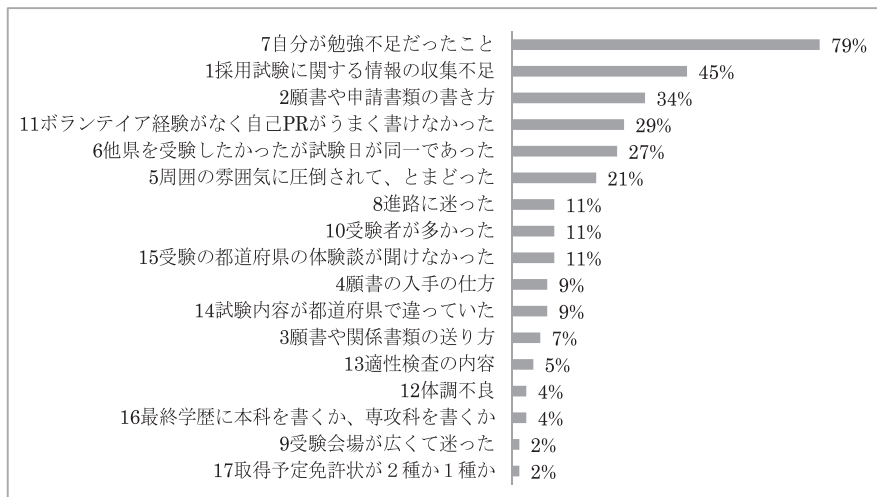


図2 教員採用試験の受験で困ったこと

次に「教員採用試験の受験で困ったこと」の回答データの特色や傾向を調べるために、17の質問項目のクロス集計を行った。

表3 教員採用試験で困ったこと17項目のクロス集計

カテゴリー	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1 採用試験に関する情報の収集不足	25	10	3	3	5	8	22	3	0	4	8	1	0	3	1	2	0
2 願書や申請書類の書き方	10	19	4	2	5	3	16	1	0	4	4	1	1	1	2	1	1
3 願書や関係書類の送り方	3	4	4	0	0	0	4	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
4 願書の入手の仕方	3	2	0	5	2	1	5	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0
5 周囲の雰囲気や圧倒されて、とまどった	5	5	0	2	12	4	11	2	0	2	4	0	0	0	1	0	0
6 他県を受験したかったが試験日が同一だった	8	3	0	1	4	15	11	2	0	1	4	1	0	2	2	1	1
7 自分が勉強不足だったこと	22	16	4	5	11	11	44	4	1	4	14	2	2	5	5	2	0
8 進路に迷った	3	1	0	1	2	2	4	6	0	0	3	0	1	1	1	0	0
9 受験会場が広くて迷った	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
10 受験者が多かった	4	4	0	1	2	1	4	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
11 ボランティア経験がなく自己PRがうまく書けなかった	8	4	1	2	4	4	14	3	0	0	16	1	0	3	1	1	0
12 体調不良	1	1	1	0	0	1	2	0	0	0	1	2	1	1	0	1	0
13 適性検査の内容	0	1	1	1	0	0	2	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0
14 試験内容が都道府県で違っていた	3	1	0	0	0	2	5	1	0	0	3	1	0	5	2	1	0
15 受験の都道府県の体験談が聞けなかった	1	2	0	0	1	2	5	1	0	0	1	0	0	2	6	0	0
16 最終学歴に本科を書か、専攻科を書か	2	1	0	0	0	1	2	0	0	0	1	1	0	1	0	2	0
17 取得予定免許状が2種か1種か	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

表3のクロス集計の対角線上の数値は、回答者56人の中で当該項目を回答した人数である。これは図2の単純集計の割合と同じである。「教員採用試験の受験で困ったこと」について、回答人数の割合が多い上位3項目は、「自分が勉強不足だったこと」(44人、79%)、

「採用試験に関する情報の収集不足」(25人、45%)、「願書や申請書類の書き方」(19人、34%)であった。

次に17の質問項目データについて数量化3類を適用し、固有値とカテゴリースコアを求めた(表4)。またカテゴリースコアの1軸と2軸は、相関係数が0.5以上を使用することにした。カテゴリースコアの1軸と2軸の棒グラフは、それぞれ図3と図4である。

表4 固有値・寄与率・相関係数

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.5098	12.41%	12.41%	0.7140
第2軸	0.4606	11.21%	23.62%	0.6786

表5 カテゴリースコア

質問項目	1軸	2軸
1 採用試験に関する情報の収集不足	-0.13515	-0.21553
2 願書や申請書類の書き方	-0.20342	-0.1587
3 願書や関係書類の送り方	-0.20127	1.263865
4 願書の入手の仕方	-0.19942	1.327298
5 周囲の雰囲気に圧倒されて、とまどった	-0.12108	-0.47626
6 他県を受験したかったが試験日が同一であった	-0.23298	-0.94655
7 自分が勉強不足だったこと	0.250106	-0.03562
8 進路に迷った	-0.33442	1.811943
9 受験会場が広くて迷った	12.78666	0.451587
10 受験者が多かった	-0.31353	-0.89021
11 ボランティア経験がなく自己PRがうまく書けなかった	-0.10141	0.040606
12 体調不良	-0.2969	1.964179
13 適性検査の内容	-0.4851	5.578418
14 試験内容が都道府県で違っていた	-0.11271	-0.17599
15 受験の都道府県の体験談が聞けなかった	-0.08216	-0.88014
16 最終学歴に本科を書くか、専攻科を書くか	-0.17868	-0.0233
17 取得予定免許状が2種か1種か	-0.82444	-2.89569

第1軸のプラス方向への値は、「受験会場が広くて迷った」と「自分が勉強不足だったこと」の2つである。特に「受験会場が広くて迷った」の値が大きい。これは教員採用試験と直接に関するものではない。同じようにマイナス方向への値は、「取得予定免許状が2種か1種か」、「適性検査の内容」、「進路に迷った」、「受験者が多かった」など、これらの項目も教員採用試験に直接の影響を与えるものではなく、メンタル面に関する潜在要因と考え、1軸を採用試験の「心理環境軸」と命名した。

2軸のプラス方向の値は、「体調不良」、「適性検査の内容願書」、「関係書類の送り方」、

「願書の入手の仕方」、「進路に迷った」などであり、マイナス方向の値は、「取得予定免許状が2種か1種か」、「他県を受験したかったが試験日が同一であった」、「受験者が多かった」など、教員採用試験の準備と振り返りの潜在要因を表していると考え、2軸を採用試験の「条件軸」と命名した。

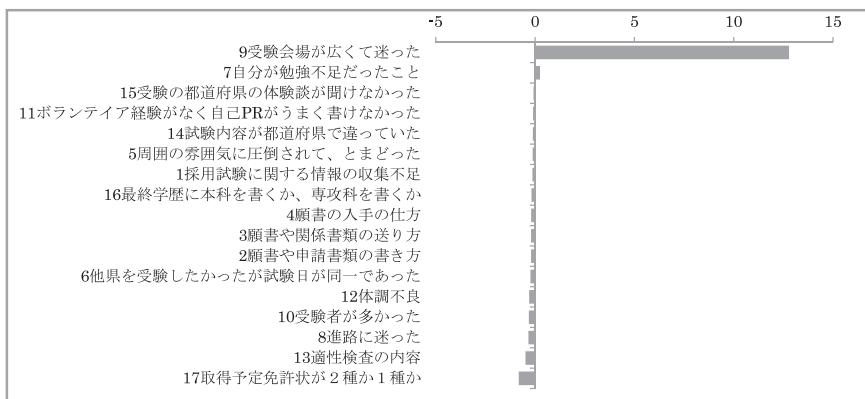


図3 カテゴリー数量 第1軸

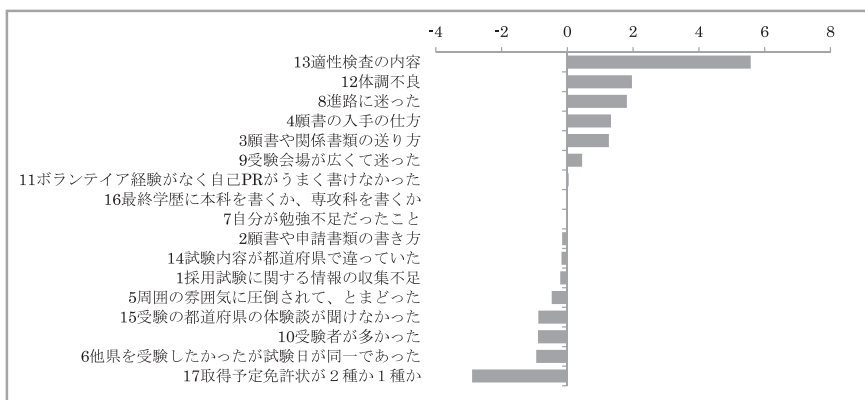


図4 カテゴリー数量 第2軸

右の図5は、1軸と2軸のカテゴリースコアを散布図で示したものである。各点のスコアは数値が重なり合っていて見にくいので省略した。また各点間の距離が近いのはカテゴリーが類似していることを示している。

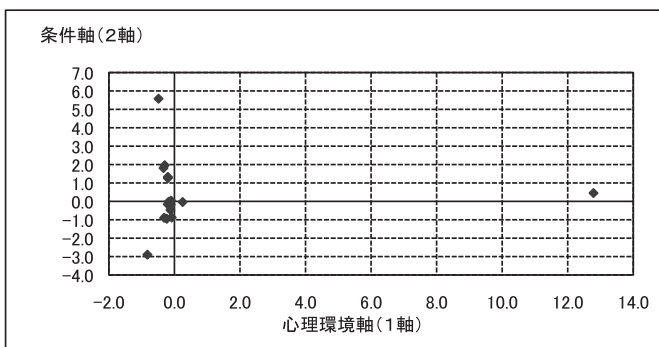


図5 カテゴリースコア点グラフ

(3) 教員採用試験の受験で迷ったこと

図6の養護教諭採用試験を受験して迷ったことの上位3項目は、「受験の勉強の仕方や方法」(73%)、「どんな教材を使って勉強したらいいか」(57%)、「どこの県を受験するか、出身県か採用が多い県か(受験地)」(27%)であった。

次に、「教員採用試験の受験で迷ったこと」の回答データの特色や傾向を調べるために、11の質問項目のクロス集計を行った(表6)。

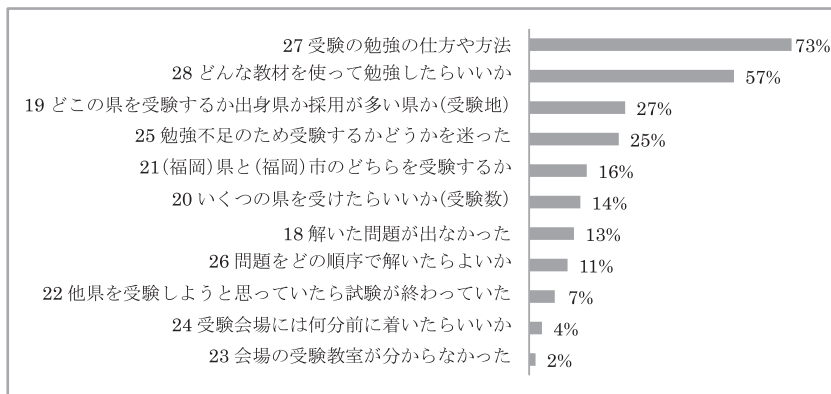


図6 教員採用試験の受験で迷ったこと

表6 回答項目のクロス集計

カテゴリー	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
18 解いた問題が出なかった	7	2	1	1	0	0	0	2	2	3	4
19 どこの県を受験するか、出身県か採用が多い県か(受験地)	2	15	3	3	0	0	0	3	0	8	6
20 いくつの県を受けたらいいか(受験数)	1	3	8	2	1	0	0	3	3	6	3
21(福岡)県と(福岡)市のどちらを受験するか	1	3	2	9	1	0	0	3	1	6	5
22 他県を受験しようと思っていたら試験が終わっていた	0	0	1	1	4	1	0	1	1	3	2
23 会場の受験教室が分からなかった	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1
24 受験会場には何分前に着いたらいいか	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	2
25 勉強不足のため受験するかどうかを迷った	2	3	3	3	1	0	0	14	2	11	7
26 問題をどの順序で解いたらよいか	2	0	3	1	1	0	1	2	6	6	5
27 受験の勉強の仕方や方法	3	8	6	6	3	1	1	11	6	41	29
28 どんな教材を使って勉強したらいいか	4	6	3	5	2	1	2	7	5	29	32

クロス集計の対角線上の数値は、回答者56人中で当該項目を回答した人数である。これは図5の単純集計の割合と同じである。回答人数の割合が多い上位3項目は、「受験の勉強の仕方や方法」を選択した人数が41人(割合73%)、「どんな教材を使って勉強したらいいか」

いか」を選択した人数が32人（57%）、「どこの県を受験するか出身県か採用が多い県か（受験地）」を選択した人数が15人（27%）であった。

次に対角線以外のセルの数値を見てみよう。「受験の勉強の仕方や方法」と「どんな教材を使って勉強したらいいか」が交差するセルの数値は29である。これは「受験の勉強の仕方や方法」と「どんな教材を使って勉強したらいいか」の両方を回答した学生が29人いたということである。

次に「教員採用試験の受験で迷ったこと」の11の回答データについて数量化3類を適用し、固有値とカテゴリースコアを求めた。またカテゴリースコアの散布図の1、2軸は、相関係数が0.5以上を使用することにした。

表7 固有値・寄与率・相関係数

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.4831	16.66%	16.66%	0.6950
第2軸	0.4419	15.24%	31.90%	0.6647

表8 カテゴリースコア

質問項目	第1軸	第2軸
18 解いた問題が出なかった	1.0570	2.8803
19 どこの県を受験するか出身県か採用が多い県か（受験地）	1.9261	-0.4993
20 いくつの県を受けたらいいか（受験数）	1.1775	-0.5842
21（福岡）県と（福岡）市のどちらを受験するか	0.4813	-1.2172
22 他県を受験しようと思っていたら試験が終わっていた	-1.3920	-2.7156
23 会場の受験教室が分からなかった	-2.5730	-3.4320
24 受験会場には何分前に着いたらいいか	-3.4883	2.3789
25 勉強不足のため受験するかどうかを迷った	0.3593	0.4538
26 問題をどの順序で解いたらよいか	-0.7348	0.7768
27 受験の勉強の仕方や方法	-0.3696	-0.1257
28 どんな教材を使って勉強したらいいか	-0.6373	0.2072

カテゴリースコアの1軸を図7に示した。図7を見ると、プラス方向に「どこの県を受験するか、出身県か採用が多い県か（受験地）」、「いくつの県を受けたらいいか（受験数）」、「解いた問題が出なかった」であり、マイナス方向に「他県を受験しようと思っていたら試験が終わっていた」、「会場の受験教室が分からなかった」、「受験会場には何分前に着いたらいいか」が位置していた。1軸は採用に関する情報を弁別する軸と考えて、「採用心得軸」と命名した。

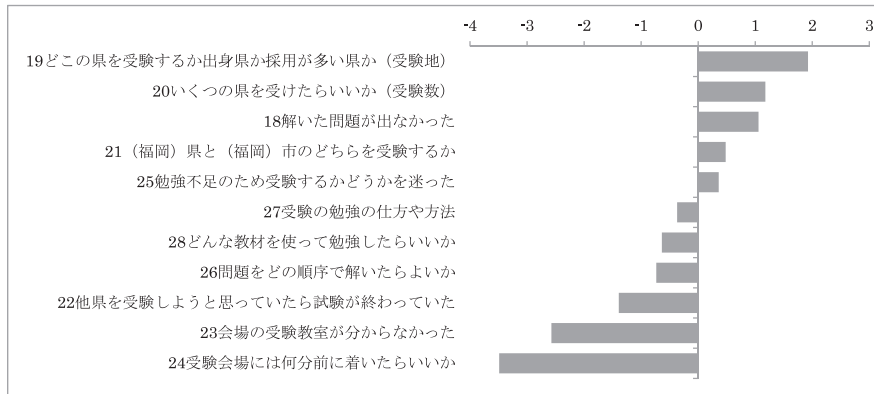


図7 カテゴリー数量 第1軸

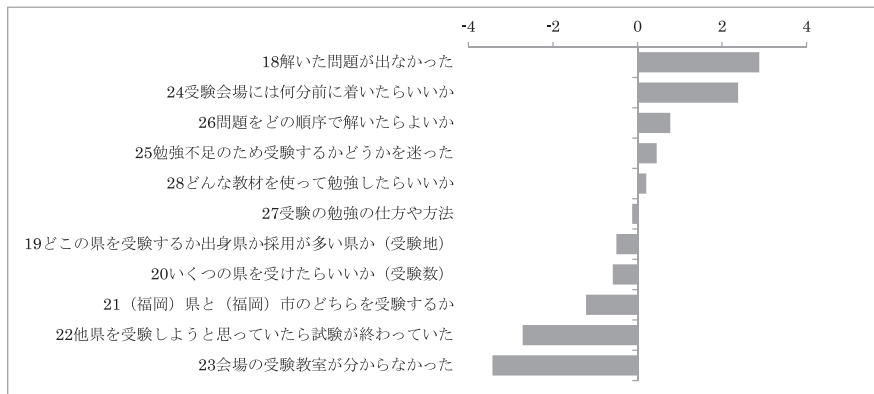


図8 カテゴリー数量 第2軸

2軸はプラス方向に、「解いた問題が出なかった」、「受験会場には何分前に着いたらいいか」、「問題をどの順序で解いたらよいか」、マイナス方向に「(福岡) 県と (福岡) 市のどちらを受験するか」、「他県を受験しようと思っていたら試験が終わっていた」、「会場の受験教室が分からなかった」などが位置していた。この2軸は採用に対する意気込みを弁別する軸と考へて、「採用意気込み軸」と命名した。

横軸を1軸(採用心得軸)、縦軸を2軸(採用意気込み軸)として、カテゴリースコアの散布図を書いた(図9)。散布図の中のプロットの位置に近いカテゴリーは、類似していると考えられる。散布図から類似のカテゴリーは4グループに分けられた。

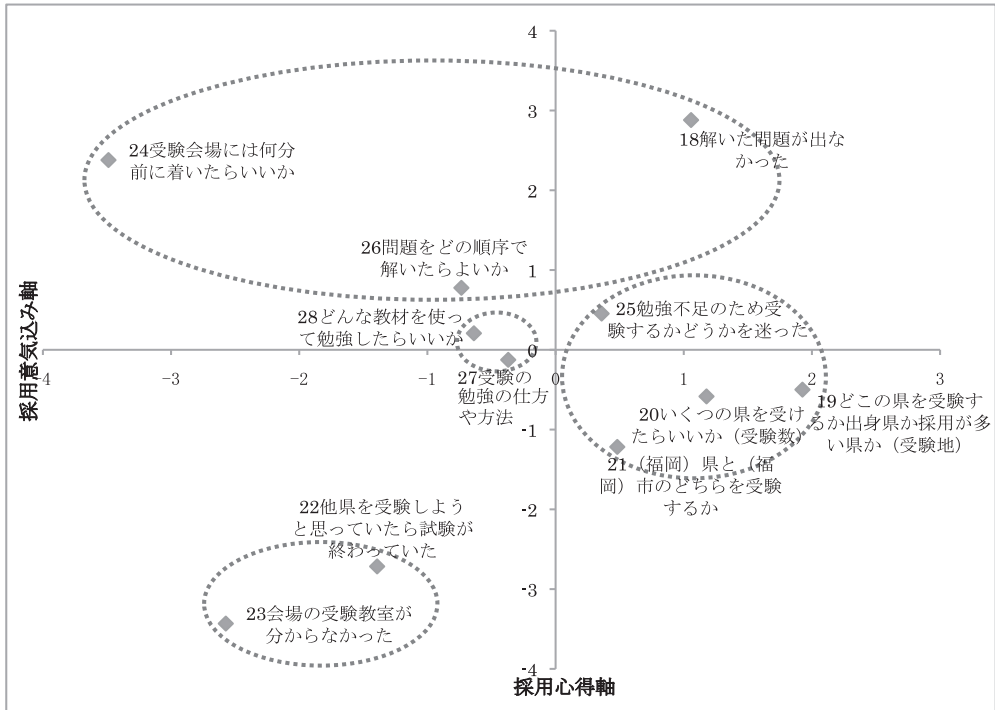


図9 第1軸×第2軸

(4) 教員採用試験の受験で不足していたこと

図10は学生が養護教諭採用試験を実際に受験してみて、自分に不足していると認識している回答項目である。上位3項目は、「教職教養」(61%)、「全体的な勉強不足」(54%)、「小論文や記述問題の書き方」(50%)であった。

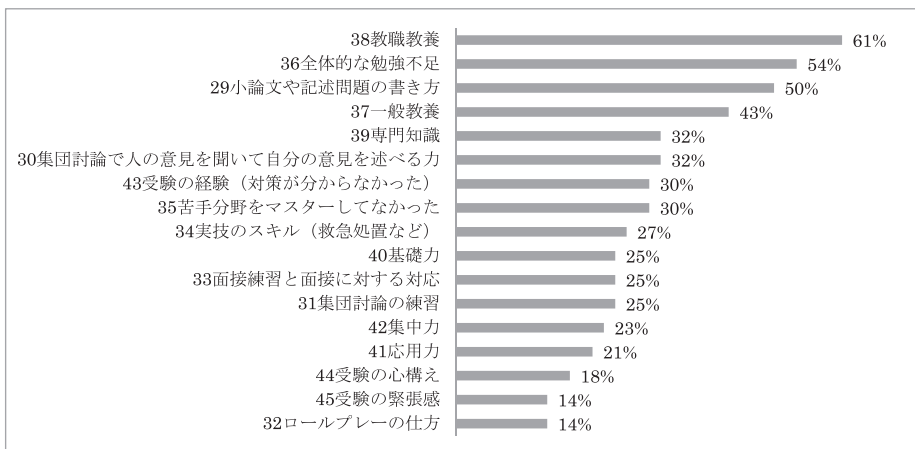


図10 教員採用試験の受験で不足していたこと

逆に下位3つは、「受験の心構え」(18%)、「受験の疲労感」(14%)、「ロールプレーの仕方」(14%)であった。

次に「教員採用試験の受験で迷ったこと」の回答データについて数量化3類を適用し、固有値とカテゴリースコアを求め(表9)、1軸と2軸をグラフ化した(図11、12)。またカテゴリースコアの散布図(図13)は、相関係数が0.5以上を使用することにした。

表9 カテゴリースコア

カテゴリ	第1軸	第2軸
29小論文や記述問題の書き方	-0.6316	0.1182
30集団討論で人の意見を聞いて自分の意見を述べる力	-1.2779	-0.1519
31集団討論の練習	-0.5167	-0.3873
32ロールプレーの仕方	-0.1798	0.5598
33面接練習と面接に対する対応	-0.8691	0.7658
34実技のスキル(救急処置など)	-1.4355	-0.2835
35苦手分野をマスターしてなかった	-0.5994	0.4354
36全体的な勉強不足	-0.2227	1.7267
37一般教養	0.2829	-0.5494
38教職教養	0.2990	-1.3111
39専門知識	-0.0508	-1.1956
40基礎力	1.8881	1.3626
41応用力	1.5748	-1.4937
42集中力	0.1983	-1.1403
43受験の経験(対策が分からなかった)	-0.4331	0.9207
44受験の心構え	1.8257	0.3016
45受験の緊張感	3.1355	1.1232

1軸は、上方向に「受験の緊張感」、「基礎力」、「受験の心構え」などがあり、下方向は「面接練習と面接に対する対応」、「集団討論で人の意見を聞いて自分の意見を述べる力」、「救急処置などの実技のスキル」があり、この軸は受験に対する準備力を潜在的に意味していると考え、「実践的準備力」と命名した。

2軸は、上方向に「全体的な勉強不足」、「基礎力」、「受験の緊張感」など、1軸と同様な項目の得点が高かった。下方向は、「専門知識」、「教職教養」、「応用力」など、どれも実践的指導力に関わる内容であり、教師として必要な資質能力を示す潜在変数と考え、「実践的能力」と命名した。

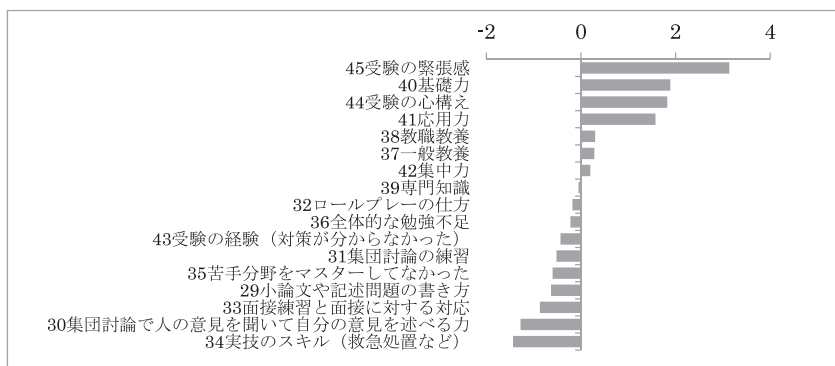


図11 カテゴリー数量 第1軸

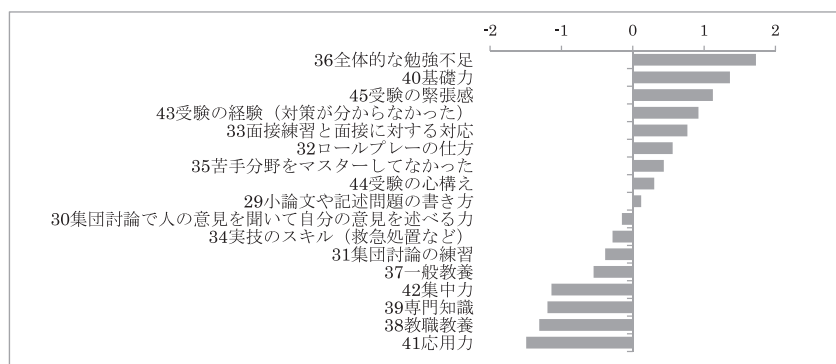


図12 カテゴリー数量 第2軸

1軸の「実践的準備力」、2軸の「実践的能力」のカテゴリースコアをプロットした散布図が図13である。プロット項目は記載していないが、プロットの点が近い項目ほど距離が近く、学生は距離は近い項目は似たような質問であると認識していると言えよう。

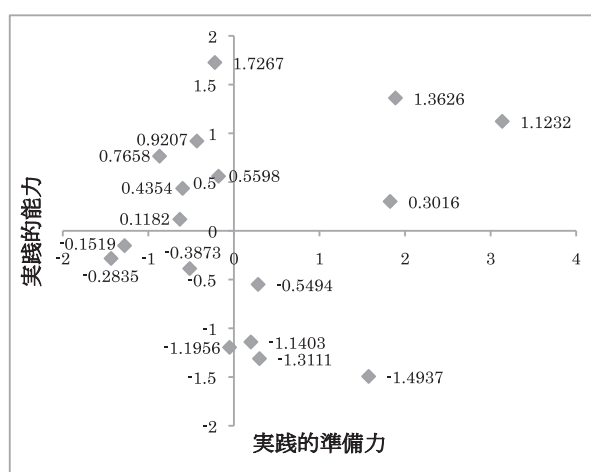


図13 第1軸×第2軸

(5) 今後、つけたい力

養護教諭採用試験を受験した学生が、今後つけたい力と認識している上位3項目は、「教職教養」(66%)、「一般教養」(64%)、「専門的知識・技能」(57%)であった(図14)。

一般的に教員に必要な資質能力が専門性と教養であると言われていたことを裏付ける結果になっていた。

一方、下位3項目は、「ロールプレーができる力」(18%)、「実習を踏まえた実践力」(18%)、「分からないことは、自分で調べる実行力」(16%)であった。

「今後、つけたい力」の19項目の回答データについて、数量化3類を適用し、二つの軸を求めた(表10、図15、図16)。1軸は、「分からないことは、自分で調べる実行力」、「書かれていることを理解し、的確に答えられる力」、「ロールプレーができる力」が上方向にあり、下方向は「合格できる学力と人間力」、「専門的知識・技能」、「一般教養」など、自ら学習し人間力を高める潜在変数と考え、「自己研鑽能力」と命名した。

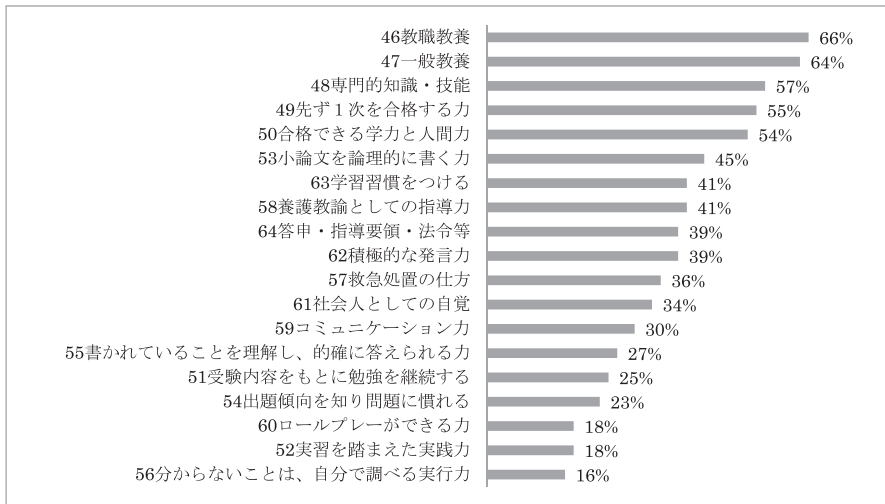


図14 今後、つきたい力

2軸は、「受験内容をもとに勉強を継続する」、「合格できる学力と人間力」、「実習を踏まえた実践力」が上方向にあり、「ロールプレーができる力」、「小論文を論理的に書く力」、「救急処置の仕方」などが下方向に位置していた。この軸は教師としての実践意欲と実践力を高める潜在変数と考え、「合格可能能力」と命名した。

表10 カテゴリースコア

カテゴリ	第1軸	第2軸
46教職教養	-0.8794	-0.2307
47一般教養	-0.9377	-0.7865
48専門的知識・技能	-1.0488	-0.3932
49先ず1次を合格する力	-0.7791	0.3956
50合格できる学力と人間力	-1.5713	1.2763
51受験内容をもとに勉強を継続する	1.2947	2.7601
52実習を踏まえた実践力	0.7049	1.2157
53小論文を論理的に書く力	0.3836	-1.0110
54出題傾向を知り問題に慣れる	1.3200	1.0595
55書かれていることを理解し、的確に答えられる力	1.5739	-0.5414
56分らないことは、自分で調べる実行力	2.4090	0.8193
57救急処置の仕方	0.6501	-2.5008
58養護教諭としての指導力	-0.1581	0.2722
59コミュニケーション力	1.1599	-0.6402
60ロールプレーができる力	1.3978	-0.9285
61社会人としての自覚	0.7069	0.6164
62積極的な発言力	0.5941	0.0015
63学習習慣をつける	0.4651	0.2778
64答申・指導要領・法令等	-0.2875	0.2782

また、1軸「自己研鑽能力」と2軸「合格可能能力」の散布図は図17である。散布図の各プロットの位置を見ると、カテゴリースコア相互の距離が近いことが分かる。これは、学生が「今後、つきたい力」と認識している19の内容項目は、どれも類似したものであると言える。

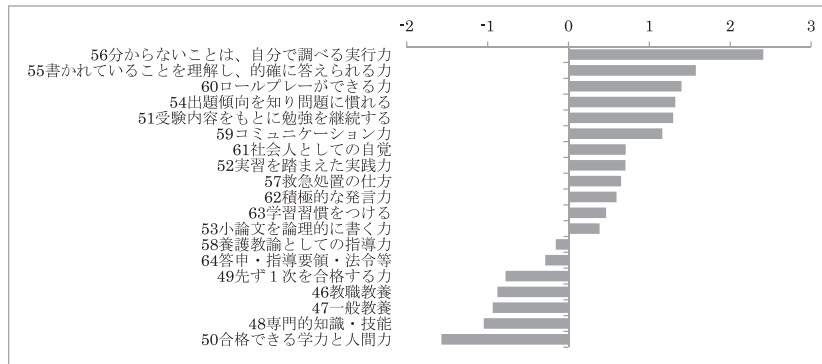


図15 カテゴリー数量 第1軸

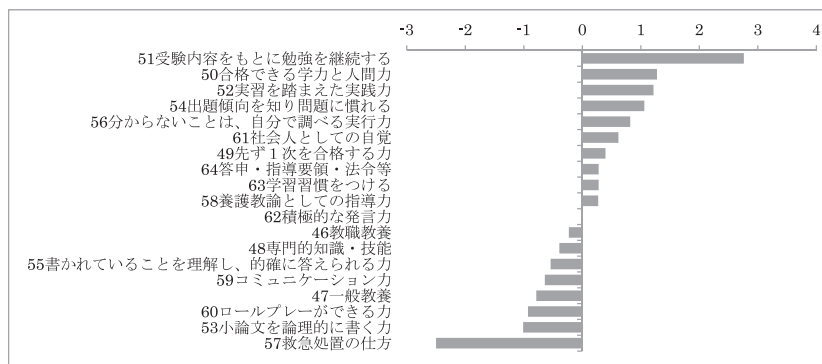


図16 カテゴリー数量 第2軸

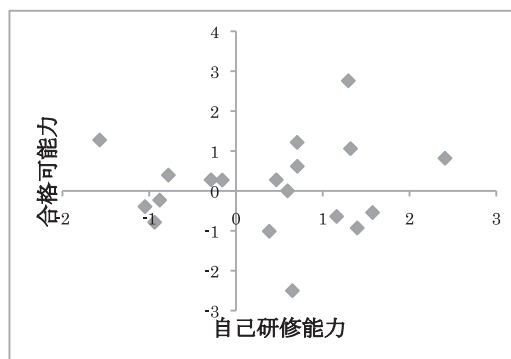


図17 第1軸×第2軸

4. 考察

今回、養護教諭採用試験を受験した学生のアンケート調査を振り返りながら、改めて心に強く感じたことは、教員がもっと学生への関与を深め、学生の期待に添える支援をすることである。教員採用試験の仕事は、一部の教員が行うものではない。学科の違いはあっても、

教員採用試験への関わりは、教員各自の協力のもと組織体制として推進していく必要がある。

教職課程を設置する大学では、当該年度の教員採用試験の合格率や合格者数が、大学の売りになっていることも既成事実である。大学案内や大学ホームページで提供される卒業生の就職や進路先データは、高校生や保護者にとっては入学を検討する大きな要因の一つになっている。特に教員志望の関係者には大きな関心事であると言える。こうした状況を踏まえると、教員養成を目的とする国立教育大学をはじめ、課程認定の国公立大学では、各大学が教員養成に関する特色ある取り組みを行っている。

教員養成系大学は、将来、教職に就いて児童生徒を指導する教員を育成する役割を担っている。教員に必要な知識や技術などが共通科目や専門科目を通して履修するようになっている。教員になるには教員免許状が必要であり、これは教員資格の有無を示すものである。教員に求められる一定の資質能力や優秀性等については、それを評価する教員採用試験を経る必要がある。そこでは教員としての幅広い人間性や実践的指導力が求められる。こうした資質能力の他にも、一般教養と教職教養および各教科の専門知識など、教員に必要な基礎的知識と技能が採用試験では問われる。二次試験では実践的指導力としての模擬授業、場面指導、実技（水泳・体育・英会話など）、個人面接などが課されるとともに、教員として学校現場で指導ができるかどうかの適性、積極性、意欲、逞しさなどの性向や総合的な人間性などの資質能力が判定されるのである。教員になるためには、様々な試験をクリアして一定の評価を得なければならない。

一方、教員養成は本来、養成・採用・研修の三つの大きな段階を担う関係機関が、一つの制度的システムのなかで実際の機能を果たすことが重要である。教員養成段階では大学が大きな責任と役割を担い、採用段階では教育委員会が大きな役割を果たしている。そして学校に就職すれば経年と職務に応じた相応しい研修が教育委員会主導で行われている。しかしこうした大学と教育委員会とが連携したシステムのなかで教員養成を図る制度的システムは現段階ではほとんど構築されていない。今後は、大学側と教育委員会側とがさらに連携を深めるとともに、次代の日本を担う児童生徒を育てる人材育成を重視する取り組みが求められる。

参考文献

- (1) 海保博之著『心理・教育のためのデータ解析入門』日本文化科学社1980年
- (2) 木下栄蔵著『多変量解析入門第2版』近代科学社 2009年
- (3) 内田治著『すぐわかるEXCELによる多変量解析第2版』東京図書 2005年
- (4) 菅民郎著『すべてがわかるアンケートデータの分析』現代数学社 2010年

Survey of students who take the nursing teacher recruitment exam

Tsukasa KAWANO

Department of Education and psychology, Faculty of
Humanities, Kyushu Women's University
1-1Jiyugaoka Yahatanishi-ku, Kitakyushu-Shi Fukuoka 807-8586 Japan

Abstract

School nurse for recruitment exam, that exam was troubled Province, in the examination, it was lost in the exam, which was a deficiency in the examination, questionnaire survey was conducted in the future you want to give power for five points. As a result, many students had been squeezed into one place of examination. Troubled that students in the examination, that he was a lack of study, lack of collection of information about employment test, which is how to write application and application documents, it was lost in the test, how to study and methods of examination and , or do I study was, whether to take the county where using any materials. That was lacking in the examination, culture teaching, lack of study overall, there is writing of the problem and descriptive essays, which have been recognized as a force that you want to give future addition, educated teachers, general education, professional knowledge also -such was the skill.

Keyword: Nursing teacher recruitment exam/Category 3 quantification/Questionnaire survey